

第2次岸和田市子ども読書活動推進計画



平成 25 年 11 月

岸和田市・岸和田市教育委員会

表紙は、桜台図書館でのお話会と市内小学校での自動車文庫の様子。

は じ め に

子どもの読書活動は、「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」（子どもの読書活動の推進に関する法律第2条）であり、その推進を図っていくことは極めて重要です。国や大阪府においては、この考えに基づき、推進計画の策定や具体的な支援を行ってきました。

岸和田市では、これらを踏まえて、平成16年7月に「岸和田市子ども読書活動推進計画」（第1次計画）を策定し、これによって、それ以前から取り組まれていたさまざまな活動がより活発となり市民の評価を受けております。

ところで、「いちげっさんしゅう一月三舟」という言葉があります。これは同じ月を見ている舟、北行の舟、南行の舟からでは、月の動きや姿がそれぞれ違って見えるという意味ですが、私自身も市長になってから、岸和田を見る目が随分変わってきた気がします。とくに、これまで以上に岸和田の良いところがいろいろと見えてきて、ますます好きになり、誇りと自信がより大きくなってきたように思います。この「一月三舟」という言葉を読書に当てはめて考えますと、同じ本でも柔らかい感性を持っている子どものときに読むのと、成人、熟年になってから読むのとでは、随分違う受け止め方をすることであり、このたびの「第2次岸和田市子ども読書活動推進計画」の策定・推進が、まさにこの時期の子どもたちにとって、かけがえのない一舟目の読書体験につながることを願っています。

この計画の策定に当たっては、子どもたちが読書に親しむことができる仕掛けづくり、きっかけづくりを念頭に進めました。それにはまず、子どもたちの身近に本があること、その本を介する人がいること、その環境をさらに整備し、子どもたちや保護者が本を手にする機会が増えるようにすることが肝要だと考えます。具体的には、第1次計画期間中の、現状と取組、成果を振り返り、評価し、残された課題解決に向けた新たな基本方針を示すとともに、岸和田らしい内容も盛り込んでいます。

子どもたちの輝かしい未来のために、各分野の皆様方の読書活動への大きなお力添えを賜り、この計画が子どもたちの読書活動に大いに役立つことを念願し、市民の皆様と一緒に、効果的に推進して参りたいと思います。

おわりに、策定検討委員の皆様をはじめ、多大なご協力、ご指導を賜りました関係各位に心からお礼申し上げます。

平成25年11月
岸和田市長 野口 聖

目 次

第1章	第2次岸和田市子ども読書活動推進計画策定の趣旨・・・・・・・・・・	4ページ
1	子どもを取り巻く社会環境と読書活動（背景・策定目的）	
2	第2次計画策定の経緯	
3	第2次計画策定の位置づけ	
第2章	岸和田市子ども読書活動推進計画期間中の現状と取組・成果と課題・・	8ページ
1	家庭における現状と取組・成果と課題	
2	保育所（園）における現状と取組・成果と課題	
3	幼稚園における現状と取組・成果と課題	
4	学校における現状と取組・成果と課題	
5	文庫やボランティアにおける現状と取組・成果と課題	
6	書店における現状と取組・成果と課題	
7	公民館における現状と取組・成果と課題	
8	図書館における現状と取組・成果と課題	
第3章	第2次岸和田市子ども読書活動推進計画の基本方針・・・・・・・・・・	24ページ
1	第1次計画における取組・成果と課題（抄出）	
2	第2次計画の基本方針	
	子ども読書活動推進の連携イメージ・・・・・・・・・・	27ページ
第4章	子どもの読書活動推進のための具体的方策・・・・・・・・・・	28ページ
1	家庭	
2	保育所（園）	
3	幼稚園	
4	学校	
5	文庫やボランティア	
6	書店	
7	公民館	
8	図書館	
第5章	第2次岸和田市子ども読書活動推進計画の推進方法・・・・・・・・・・	36ページ
1	計画期間	
2	推進体制の整備	
3	財政上の措置など	

<資 料>	37 ページ
岸和田読書ビンゴについて	38 ページ
絵本と子育てについてのアンケート集計結果(抜粋)	50 ページ
学校図書館実態調査アンケート集計結果(抜粋)	58 ページ

第1章 第2次岸和田市子ども読書活動推進計画策定の趣旨

1 子どもを取り巻く社会環境と読書活動（背景・策定目的）

近年の情報化社会の劇的な進展は、価値観の多様化や世代間の差異拡大にとどまらず、社会のコミュニケーションシステムや伝統・文化の伝達・伝承のあり方にまで影響を及ぼしています。

とくに、第1次計画を策定した平成16年以降の約10年は、携帯電話とメール利用の広がり、パソコンをはじめ、スマートフォン・タブレット等のモバイル機器の普及によるコミュニケーションの多様化、SNS（Social Networking Service：人や社会のネットワークをインターネット上に構築したサービス）やBBS（Bulletin Board System：電子掲示板）といった各種サービスの充実とソフトの開発・利用、そして、電子書籍の導入に至るまで、想像をはるかに超える世界が展開されています。

しかし、この急激な展開には、光の部分とともに、当然、陰の部分も発生します。例えば、ゆったりした時間の流れの中で、子どもに昔話や童話を語る時間が少なくなったり、小・中学生がその年齢にふさわしい物語に読み浸ることが減ったり、中・高校生が本の中から人生の真実を見つけ、生きる力を得るという余裕がなくなったりしています。その子どもたちの余裕のない生活は、荒んだ心を生み、陰湿ないじめに走るといような、ともすればマイナス面へもつながりかねません。

そこで、岸和田市として、改めて前回の第1次計画を検証し、その反省と現状を踏まえて、新たに第2次計画を策定することにしました。

その際、前述の背景の変化も踏まえ、次の点に留意しながら策定しました。

- (1) 前回の活動を見直し、未就学児部門と学齢期部門に分けて考察し、より取り組みやすい方法を考えました。
- (2) 子どもの読書活動を推進するための体制や読書世界への誘い、啓発、指導、評価等のあり方を新たに考えました。
- (3) 前回のアンケート調査の中で、とくに重視されたことを再度調査し、その変化や問題点を明確にして、今後のあるべき方向を考えました。
- (4) 今まで本にあまり関心を示さなかった子どもも、1冊でも多く本を友にでき、その「友」から「感動」と、次への「意欲」、「生きる力」を得られるよう、環境や方策を考えました。

「森深くして鳥高く飛ぶ」という言葉があります。読書という森を深くすることによって、心は大空を高く豊かに飛翔すると考えられます。今後、インターネットや電子書籍等によって、読書形態は大きく変化する可能性があります、それでもなお、本棚の本を選び、本に選ばれ、ページをめくり、思わず前の部分を読み返し、言葉と行間に思いをめぐらせ、自分の心の琴線の共鳴部分を確認、深い思索と自分の未来への秘かなる決意を持つといった読書の醍醐味は、少しも損なわれないと思われます。

そして、この心の琴線をふるわす感動こそが、心を育て、人の気持ちに共感的理解をし、人の苦楽を深く思いやる感性を育む道に通じ、ひいてはそれが親と子、子と子、人と人との心の絆を結びつなぐ、豊かな森に育つものと思われます。

このような中で、子どもたちが豊かな心を育み、心の糧とし、心に灯火をともす素晴らしい1冊の本との出会いを願って、この第2次計画を策定する次第です。

この計画では、さらに子どもの読書活動を推進するために、(仮)「岸和田市子ども読書活動推進会議」において、子ども読書活動の個別事業を体系的に整理し、数値目標の設定や進行管理にも努めていきます。

2 第2次計画策定の経緯

平成13年、国は「子どもの読書活動の推進に関する法律」を公布しました。その第1条に「子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする」と明記し、翌年、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定しました。

平成15年には、大阪府が「大阪府子ども読書活動推進計画～大阪府子ども読書ルネッサンス～」を策定し、すべての子どもたちが本を読む喜びを味わえる環境づくりへ、子どもの読書活動に取り組むさまざまな団体・組織が連携を、と記しています。

平成16年、岸和田市でも、国と大阪府の計画を基本とした第1次計画を策定しました。

その後、子どもを取り巻く社会状況の急速な変化から、本市においても第1次計画の取組を振り返り、その成果と課題を整理し、現在の子どもたちの状況を考慮した新たな計画を策定することにしました。

3 第2次計画策定の位置づけ

この計画は、先に述べた第1次計画の後継計画であるとともに、第4次岸和田市総合計画「基本目標Ⅰ－1 生きがいを創造する・Ⅰ－2 次世代を育てる」を実現するための具体的なものでもあります。

また、この計画の対象者は、第1次計画と同じく、おおむね18歳以下の者までとします。

第2章 岸和田市子ども読書活動推進計画期間中の 現状と取組・成果と課題

1 家庭における現状と取組・成果と課題

(1) 現状と取組

家庭は、子どもと保護者が愛情やぬくもりを感じ合い、コミュニケーションをとりながら、信頼関係を育み、心と言葉を豊かにする場です。

家庭での子どもの読書活動を支援する取組として、行政やボランティアグループなどでは、以下のような事業を実施してきました。

- ・ ブックススタート[注]
- ・ 図書館とボランティアとの協働による「だっこでおはなし会」の開催
- ・ 子育て支援センターさくらだいが開催の「赤ちゃん広場」、ファミリーサポートセンター主催の「絵本講座」
- ・ 図書館とボランティアが行う「乳幼児向けおはなし会」

また、この計画策定のために、保健センターで実施している4か月児健康診査と2歳6か月児健康診査対象児の保護者、そして、保育所（園）、幼稚園の2歳児と5歳児の保護者に「絵本と子育てについてのアンケート」（平成24年11月・12月）を実施しました。結果は資料50ページ以降のとおりです。

[注]

岸和田市は平成19年度からブックススタートを開始しました。保健センターで実施している4か月児健康診査の対象児に、絵本1冊をプレゼントするもので、子育てに関する施設案内、絵本リスト、図書館利用案内等と共にお渡ししています。

絵本は、4か月児健康診査の対象児に地域の民生委員・児童委員が1軒1軒訪問する「こんにちは赤ちゃん事業」（保健センター）で配付する引換券と、市内の図書館（自動車文庫を含む）、公立保育所、子育て支援センターさくらだいで交換しています。これは、平成17年、文字・活字文化振興法が公布されたことに伴い、施策の展開が発表され、その中に、ブックススタートの普及による子育て支援が挙げられたことから始まりました。

(2) 成果と課題

前記のアンケートでは、多くの家庭で「子どもに絵本を読んでいる」、「子どもは絵本が好き」、「絵本が家庭にある」という回答が見られました。これは、この間の取組により、赤ちゃんのときから絵本を読んであげる習慣が少しずつ

根付いてきた成果と判断できます。

しかしながら、「子どもが本を好きなのか分からない」、「読み聞かせを行っていない」というアンケートの回答や、ブックスタートの引換率が6割程度であることなどから、乳児期からの読書活動の意義が十分に浸透していないことも読み取れます。

今後、アンケートの結果を踏まえ、お話会や、ブックスタートなどの趣旨を説明し、普及させていく必要があります。

2 保育所（園）における現状と取組・成果と課題

(1) 現状と取組



保育所（園）では、絵本は子どもたちの単なる遊び道具の一つではなく、読み聞かせてくれる大人から言葉とともに、心のぬくもりや思いも届けられるものとして考えています。赤ちゃんには、子守歌を歌うように繰り返し絵本を読んで共に楽しんでいます。また、幼児たちが、かくれんぼや探検で遊ぶときのような、ドキドキわくわくした気持ちを持って、絵本の世界を友達といっしょに楽しむことを大切にしています。

絵本は、保育・子育ての中で子どもの心を豊かにするために、欠くことのできないものです。子どもたちが、絵本やお話が大好きになるような、豊かな環境に向けての取組が各保育所（園）で行われてきています。

(2) 成果と課題

① 読書環境の整備・充実

- ・ 0歳児からすべての子どもたちが、日常的に保育の中で絵本やお話に親しむ読み聞かせの時間を設けています。保育室の絵本コーナーでは、保育士に読んでもらった絵本を、遊びの中で子ども自らが興味を持って読んでいます。また、季節や子どもの年齢や興味・関心に合わせた絵本等を必要に応じて置く工夫をしています。しかし、財政的な問題もあり、蔵書数が少ないままで、傷んだ絵本も多く含まれている状況は改善されておらず、子どもたちが、絵本に親しめる環境が十分に整っているとは言えません。
- ・ 絵本や紙芝居などは、図書館を利用することで子どもたちのニーズに応えていますが、保育所（園）での充実が課題です。

② 保育士の読書に関する意識の向上

- ・ 保育士は、保育に関する研修や講演会に積極的に参加しています。その中には、絵本に関することが含まれていることもあります。また、園内のカリキュラム会議の中で、絵本についての話し合いを持つこともしばしばあります。しかし、読書に関する意識向上を図るという点では、その分野の研修や講演会へ参加し、読み聞かせや、絵本におけるさまざまな知識や技術を修得することがよりいっそう望まれます。

③ 読書の重要性について家庭への啓発

- ・ 絵本に親しむ家庭環境は、社会状況の変化に伴い二極化の傾向があります。今回のアンケート回収率は、2歳児が67%、5歳児が34%でしたが、この回収率は私立保育園や幼稚園よりも公立保育所が一段低いという結果が出ており、二極化の現れの一つとして読み取れることもできます。さまざまな絵本が存在し、いろいろな情報があり、自由に選択できる状況があります。しかし、家庭のさまざまな状況や読書への意識によって、その情報が手に入るかどうかには差があります。
- ・ 乳児期からの読み聞かせの大切さや楽しさ、子どもと共に楽しむ絵本の選び方などを、保護者に伝える活動に取り組んでいます。保護者に配るお便り、行事や懇談会などの機会に子どもたちが楽しんでいる絵本を紹介しています。また、保護者に実際に絵本の読み聞かせをすることで、絵本を人に読んでもらう楽しさを実感してもらっています。
- ・ 家庭でも親子で絵本を楽しめるように、園児を対象に貸出を行っています。保護者が、保育所の本棚で子どもと借りる絵本を選んだり、家庭で借りた絵本をいっしょに読んだりすることが、子どもの好きな本を知ったり、良い絵本に出会う機会となります。また、2歳児よりも5歳児の方が、絵本を読んでもらう機会が少ないというアンケート結果から、年齢が上がって文字が読めるようになって、読み聞かせの大事さは変わらないことを伝える必要があります。このことから、絵本を親子で楽しむ機会が増えるよう貸出をより進める必要があります。

④ 読書の重要性について地域への啓発

- ・ 地域の親子を対象にした園庭開放や、赤ちゃんルームなどの遊びの場においても、絵本の読み聞かせや紹介をして、子どもといっしょに絵本を楽しむことの大切さを伝えています。とくに、赤ちゃんへの読み聞かせで、赤ちゃんが絵本を楽しめることに驚く保護者が多くいます。絵本もわらべ歌遊びのように、親子の心の絆を結ぶ遊びの一つだということを伝えています。
- ・ 地域の親子を対象に絵本の貸出をしている保育所もあります。
- ・ 公立保育所はブックスタートの受取場所にもなっていますが、受け取っていない家庭が多いことから、家庭への周知が課題です。

3 幼稚園における現状と取組・成果と課題

(1) 現状と取組

幼稚園では、ほとんどの園で園内に読書コーナーを設け、園児が絵本に親しめる環境を整えています。また、日々の教育の中で、教職員、ボランティア、学校図書館コーディネーター、小学生らによる読み聞かせの時間を設けています。幼児期から想像する楽しさや豊かなイメージを持ち、言葉に対する感覚が養われるよう、絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞くことができるさまざまな取組を行っています。一方、家庭でもより多くの絵本に親しめるよう、図書館や自動車文庫、小学校の図書館などを利用して、絵本の読み聞かせの機会提供に取り組んでいます。

(2) 成果と課題

① 読書環境の整備・充実

- ・ 幼稚園での生活の中で、絵本に親しめるような場の設定はもちろんのこと、教職員やボランティア等の読み聞かせの機会を持つことで、読んでもらった絵本や物語に特別な親しみを感じ、もっといろいろな絵本を読みたい、読んでほしいと思うようになります。しかし、新しい絵本を買い足す予算が少ないという現状もあります。図書館や自動車文庫、小学校の図書館等を利用して、絵本などを整えている部分が多いので、園として読書環境整備のための方策を考えていく必要があります。

② 教職員の読書に関する意識の向上

- ・ 教職員は、幼児の理解力を考慮した題材を選べるように、また、幼児が物語の世界に浸れるような読み方・話し方ができるように、園内研修を持っています。そして、学校図書館コーディネーターや読み聞かせのボランティアの助言を活かして、日々の指導に役立てています。今後、教職員が絵本の読み聞かせの技術向上やより高い知識を獲得できるよう、専門的な研修を受ける機会や時間を確保することが必要です。

③ 家庭や地域との連携

- ・ 家庭で絵本の読み聞かせの機会が増えるように、絵本の貸出をしている幼稚園が多くあります。それぞれの家庭で絵本や物語に親しめるように、蔵書を充実させることが課題です。
- ・ 家庭によって、絵本や読み聞かせに対する理解が異なるという前提のもと、今後は、より多くの家庭で子どもに読み聞かせの時間が持てるような、働きかけをしていく必要があります。
- ・ 園庭開放時に、絵本の読み聞かせの時間を取り、未就園児が絵本にふれら

れるようにコーナーを設けています。そこでは、保護者が読み聞かせの世界に没頭する子どもの姿を微笑みながら見つめていたり、親子で楽しそうに絵本を選んだりする姿がより見受けられるようになってきました。今後、このような取組を大切にしていけることが望まれます。

4 学校における現状と取組・成果と課題

(1) 現状と取組

学校図書館は、小学校では各学級で毎週1時間ずつ割り当てられている時間を中心に、調べ学習や読書の時間として利用されています。また、中学校や高等学校では、主に教科の授業や総合的な学習の時間などで利用されています。さらに、休憩時間や放課後においては、児童・生徒の委員会活動として開放時間が設けられ、図書の貸出などが行われています。

小学校においては、平成23年度から週2日、学校図書館コーディネーター（1人が2校兼務、1校に週2日で10時間）が配置されるようになり、読み聞かせやブックトークなどの読書活動の充実が図られています。その結果、子どもたちの学校図書館の利用が増え、今後とも、学習及び読書活動の指導に活かされることが期待できます。

中学校においては、子どもたちが学校図書館を利用するときには、担任や教科担任が中心となって関わるが多く、子どもたちへの読書指導や利用指導は十分とは言えない状況にあります。貸出の際にも、図書委員会の生徒が中心となるが多く、総合的で充実した読書環境には届かない状況です。

(2) 成果と課題

① 学校図書館の蔵書の充実・整備

- ・ 蔵書の状況については、平成16年の第1次計画策定の時点と比べて、図書費の増額により小中学校とも大幅に改善されていますが、今後一層の充実が必要です。
- ・ 学習意欲を高める本や人生をより良く生きるための力となる本など、児童・生徒の興味・関心に応じた蔵書の充実・整備には、なおいっそう力を注ぐ必要があると考えられます。
- ・ 百科事典や図鑑類は配備されているものの、現状においては年数が経ち、内容が古くなったものもあります。子どもたちの「自ら調べて考える力」の育成のために、ふさわしい蔵書の充実・整備が課題です。
- ・ 学校図書館の蔵書は、教職員が各教科などの授業を中心に、多様な学習活動を図るための教育資料の一面もあります。しかし、現状では各学校の学

習計画や多様な学習活動のニーズに応えるには不十分な面があります。学校教育の環境整備の観点からも、蔵書の充実・整備が必要です。

② コンピュータや施設の整備

- ・ 各学校図書館にLANが整備されたことに伴い、コンピュータによる蔵書目録のデータベース化(平成24年5月現在：小学校11校、中学校2校)を行い、蔵書の管理に活かす学校が増えてきています。
- ・ 学校図書館の環境整備については、くつろげる雰囲気の中で自由に読書に親しむとともに、自主的に学習を進めるなど、子ども自身が本を選択しやすい環境を確保するために、司書教諭、図書主任及び学校図書館コーディネーターが協力して取り組んでいます。今後も支援を必要とする子どもを含め、すべての子どもに配慮した工夫を継続していく必要があります。

③ 司書教諭、学校図書館コーディネーターの配置及び研修、連絡会議

- ・ 小学校においては、平成16年度から7年間にわたり、読書活動補助員が週4時間、読書に関わる仕事を行っていました。しかしながら、読書活動補助員の採用及び仕事内容については各学校に任されていたため、学校によって違いが生じ、他校の読書活動補助員との連携もないという状態でした。その後、平成23年度から司書又は司書教諭の有資格者である学校図書館コーディネーターが配置されるようになりました。
- ・ 学校図書館コーディネーターは、司書教諭及び図書主任の補助となるとともに、子どもたちの学習活動の充実を図る役割を担い、主に学校図書館の環境整備と利用促進、資料の選択・収集・提供や読書活動、調べ学習、学習に関連する図書や資料の紹介などの業務をしており、さまざまな成果が見られるようになってきています。しかし、時間的な制約のため、一部の学級への対応となったり、司書教諭や図書主任などとの連携が図りづらい状況であったりしています。
- ・ 中学校においては、学校図書館コーディネーターが配置されていないので、配置の検討や校務分掌の見直しなどを進めながら、学校図書館の円滑な運営を図ることが必要です。
- ・ 司書教諭の研修や学校図書館コーディネーター連絡会議の開催を通して、読書活動推進のための本の紹介やブックトークなどの研修が行われています。同時に、情報交換や交流を行うことにより、各学校における読書活動の活性化が図られています。今後はさらに、研修などを深めながら、個々の力量を高めることやさらなる交流を図ること、図書の貸し借りを含めた横のつながりを進めていくことが重要です。

④ 教職員の意識の向上

- ・ 各教科などを通して、学校図書館を利用した学習活動や日々の読書活動の充実を図るためには、司書教諭のみならずすべての教職員が連携し、子ど

もたちの学習活動・読書活動を推進していくことが重要です。各学校において、校内研修や校内研究などを通して、教職員間の連携を図るためのさまざまな取組が進められています。しかし、現状では「学校全体で読書活動を推進する」という目的意識に教職員間で差が見られ、学校図書館コーディネーターや読書ボランティアなどによるさまざまな読書活動を通して、徐々に個々の教職員の意識が変化しているものの、まだ十分とは言えません。今後は学校内の読書活動だけでなく、家庭・地域との連携も視野に入れた取組を教職員全体で行っていくことが望まれます。

⑤ 図書館や文庫・ボランティアとの連携

- ・ 図書館からは団体貸出による子どもたちの学習に応じた図書の支援・協力を得ています。また、岸和田市子ども文庫連絡会をはじめ、ボランティアなどの支援や協力により、児童・生徒が読書に親しむ経験を積み重ねている学校もあります。その一方で、学校により図書館の利用、文庫・ボランティアとの取組や連携に差が見られ、改善が望まれます。

⑥ その他の読書活動推進の取組

- ・ 岸和田市内の小・中学校では夏休みの宿題として、青少年読書感想文全国コンクールの課題図書又は自由図書から1作品を選んで、読書感想文を書くように指導しています。そこには長い夏休みに、子どもたちに「少しでも本を読んでほしい」という教職員の願いがあります。きっかけは夏休みの宿題であるとしても、子どもたちが本に出会う貴重な機会になると考えています。なお、優秀作品は読書感想文集「本を読もう」に掲載され、岸和田市内の小・中学校に紹介されます。
- ・ 読書感想文集「本を読もう」は、学校図書館協議会と連携を取りながら、継続・発行し、50号余りとなっています。
- ・ 朝の読書や読書の時間、読書週間などの取組を通し、読書に親しむ機会を提供し、読書習慣の定着を図っています。家庭や図書館で読書をしない割合は、小学校6年生で約31%、中学3年で約55%だった（全国学力・学習状況調査：平成19年4月実施）のが、現在では小学6年で約19%、中学3年で約30%（平成24年度大阪府学力・学習状況調査：平成24年6月現在）と減少してきており、これらの取組の効果が現れてきていると言えます。今後もこれらの取組を継続していくことが大切です。

5 文庫やボランティアにおける現状と取組・成果と課題

図書館で活動するボランティアには、次のようなグループがあり、図書館と協働でさまざまな取組をしています。

(1) 「岸和田市立図書館ボランティアグループだっこ」

図書館が乳幼児に行うサービスに携わっているグループです。図書館と話し合いを重ねながら、赤ちゃんと保護者の読書活動に関わっています。サービス拡充には、メンバーのスキルアップと増員が欠かせない状況です。

(2) 「おはなしのポケット」

図書館のストーリーテリング（昔話などを語る）講座終了後、引き続きストーリーテリングを広める活動が続けたいと希望したメンバーが集まり、お話会で活動しています。今後さらに、子どもたちやその保護者に、お話の世界の魅力を伝える取組を図書館などと協働で進めていきます。

(3) 「もこもこ」

手袋人形や小物などの布おもちゃを作成しているグループです。作品は、保育所（園）、幼稚園、小学校及び文庫のお話会で使われています。作品の利用拡大のPRが課題です。



(4) 「タッチ」

さわる絵本を作成しているグループです。図書館の開架スペースに作品を展示し、市民の目にふれることで、障がい児・者理解を得るきっかけとなっています。今後は、関係施設にさわる絵本の情報を発信する必要があります。

(5) 「キツツキ」・「灯（あかり）」

点字図書を作成しているグループです。完成した点字図書は図書館で貸し出ししています。録音図書の普及に伴い、利用減少の傾向が見られますが、必要性を考え、児童・生徒への利用促進を図ることが課題です。

(6) 「ひばり」

録音図書（カセット・デージー[注]）、声の新作図書案内の作成、図書の対面朗読をしているグループです。児童・生徒への利用促進を図ることが課題です。

[注]デジタル録音図書。見出しのみを再生したり、希望する見出しへジャンプして再生したりすることが可能。

(7) 「岸和田みんなの図書館を考える会」

市民の視点から学校図書館、図書館の充実のために、学習会や講演会の企画をしているグループです。それぞれの図書館の活性化と、読書活動の推進に取り組んでいます。関係各機関と連携を深めることが課題です。

(8) 「岸和田市子ども文庫連絡会」(岸子連)

岸子連は、家庭文庫や地域文庫を個々で開設し運営していた人たちが集まり、協力して子どもの読書活動に携わっているグループです。

現状と取組・成果と課題は次のとおりです。

【現状と取組】

岸子連は「どの子にもよい本、よい読書環境を」と願って、活動しているボランティアグループです。子どもが本を読む喜びを知り、それが生きる力を育むことになればと、子どもと本を結ぶさまざまな働きかけをしています。時代の変遷とともに、文庫に子どもが来るのを待つだけでなく、幼稚園、学校図書館や公民館で子どもたちに、本やお話を届ける活動へと広げてきました。学校でお話を語ったり、絵本を読み聞かせしたり、児童書などを紹介する「お話配達」は平成2年に1校から始まりましたが、今では岸和田市内の全小学校(24校)で実施しています。図書館や学校と連携しながら、子どもたちの読書環境がより良くなるように、長く活動を続けてきたことが認められ、平成24年度には「子どもの読書活動優秀団体」として文部科学大臣表彰を受けました。

【成果と課題】

① 文庫活動

- ・ 市内にある8つの文庫は、本の貸出、お話会、科学遊びや工作会などをそれぞれ月1回～5回実施してきました(平成23年度:年間参加人数延べ3,500人、年間貸出冊数6,600冊、活動者延べ550人)。親子での参加者も多く、地域の子どもや子育て中の人に、子どもの本への関心を高めています。しかしながら、子どもを取り巻く社会の急激な変化にともない、子どもの生活環境が大きく変化しており、参加者は減少の傾向にあります。

② お話配達

- ・ 学校図書館協議会に参加し、岸子連のお話配達について説明する機会を得たことで、教職員に岸子連の「お話配達」への理解を深めることができました。
- ・ 市内の全小学校で、授業時間に本の読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトークなどを実施しています。紹介した本は図書館から団体貸出を受けて学校に置いてきます(平成24年度:活動者延べ199人、授業時間数247時間、本の貸出冊数約950冊)。子どもたちからは、「面白かった」、「楽しかった」、「また来てほしい」など、多数の声が寄せられます。教職員からも「読書への興味・関心につながりました」などの感想が聞かれました。

- ・ 課題としては、お話配達に参加できるメンバーが十分確保できないため、6 学年中、4 学年を選んでの対応となっていることです。お話配達メンバーの育成が急務であると同時に、お話会、お話配達をより充実させるため、メンバー各々の力量を高めることが重要です。また、学校の図書担当の教職員や学校図書館コーディネーターと子どもや本について情報交換し、連携を密にすることも必要です。

③ 学習会と分科会

- ・ お話配達の内容をより充実させるために、毎月 1 回～3 回、図書館で学習会を開いています。内容は学校での読書に関わるボランティア活動の目的や意義などについて共通認識を持つことや、選書方法、プログラムの立て方、ストーリーテリング、ブックトークの手法など、子どもと本を結ぶ技術を学ぶことです。学習成果は子どもの発達段階にふさわしいお話配達の実践につながっています。
- ・ 現在の子どもたちの興味・関心に添いつつ、子どもたちが自分や社会について考えを深めることのできる本を見つけ、それらの本について学習を進めることが今後の課題です。

④ 定例講座「絵本とお話を楽しむ会」の開催

- ・ 地域で子育て中の人たちに、絵本やお話の楽しさを知ってもらう目的で会員を募り、月 1 回図書館で定例講座を開催しています。外部講師を招くこともあれば、岸子連のお話配達メンバーが講師となることもあります。この活動によって新しい会員も増え、地域の人たちに子どもの本やお話に興味・関心を持ってもらうことができています。

⑤ 図書館との連携

本の団体貸出のみでなく、岸和田市の子どもの読書活動を推進するために、以下の活動を図書館と連携して行っています。

- ・ 本館・分館のお話会に参加（平成 23 年度：年間活動回数 34 回、参加者延べ 1,000 人）。
- ・ 図書館まつりで絵本の広場を「おはなしのポケット」や「岸和田市立図書館ボランティアグループだっこ」と開催。
- ・ 平成 23 年度、図書館と共催で絵本作家の講演会を開催し、親子約 100 人が参加。
- ・ 平成 22 年度、図書館主催の「お話配達ボランティア養成講座」に講師としてお話会を実演、お話配達実施方法などを説明（講座終了後、お話配達メンバーとして 10 人が入会）。
- ・ 平成 24 年度、図書館主催の「スキルアップ講座」を岸子連会員の学習会として取り組んだ結果、「お話配達」の内容を充実させ、より年齢に添ったプログラムを組むことができました。

6 書店における現状と取組・成果と課題

(1) 現状と取組

一般的に、書店の売上は、立地条件、売場面積、品揃等に大きく左右されます。売場面積における子どもの本のコーナーは決して広くありません。

市内書店の子どもの本の売上は減少傾向にあります。それは、子どもの読書意欲について落ちているとは思わないまでも、少子化とインターネット販売の普及等により、書店に足を運ぶ子どもが減っていること、また、経済不況により家庭での購入意欲が落ちているためと見られます。

(2) 成果と課題

① 子どもの本コーナーの充実

- ・ 子どもの本の売上が増えない中、子どもの本コーナーは維持しています。今後、読書好きな子どもが増えることを願い、本を選ぶ楽しさを広めていくことが課題です。

② 「読書ノート」活動

- ・ 市内書店の多くは、大阪府書店商業組合に参加しています。組合の取り組む読書推進事業のうち「読書ノート」活動について、組合と小学校との仲立ちをし、児童には読書ノートを無償配付しています。しかし、発行部数の関係上、配付は一部に限られている点が課題となっています。

③ 書店の持つ社会的意義

- ・ 全国的に、規模の小さい書店は、大規模店舗の進出やインターネット販売等の影響により、店舗数が減少傾向にあります。さらに今後、電子書籍の普及により本の出版が電子媒体へ移行し、紙媒体で書籍を販売する書店の売上が、いっそう減少していくことも予想されます。地域の書店数の減少は、子どもたちの読書環境にも影響を及ぼしかねず、書店の存在意義を伝えていく必要があります。

7 公民館における現状と取組・成果と課題

(1) 現状と取組

岸和田市には現在、19 の公民館や青少年会館が配置されています。平成 25 年度には、常盤青少年会館と青年の家が新しく建設される 2 市民センターへ移転します。現在の 3 市民センター（東岸和田・山直・春木）には、公民館と図書館分館が併設されています。

その他の公民館では、ロビーや会議室に館で購入した蔵書や図書館から配本された図書を配架しています。公民館等において文庫活動を行っている親子文庫では、本の貸出や相談、工作会、お話会などの活動を行っています。

(2) 成果と課題

① 蔵書の充実

- ・ 図書館の支援を受けて図書の充実に努めてきました。今後、地域住民への利用促進を図るため、さらなる蔵書の充実が必要です。

② 研修への取組

- ・ 読書推進につながる研修の参加については、職員数の減少等により確保しにくい状況にあります。そのため、勤務体制等を考慮しながら研修会への参加を促していくことが課題です。

③ 連携事業

- ・ 地区公民館では図書館と連携し、お話会などの行事を開催してきました。今後も連携を深めて、運営していくことが課題です。

④ 支援事業

- ・ 公民館等で活動している子育てサークルや家庭教育学級などに、絵本の貸出をする支援を行っています。
- ・ 公民館等では、文庫等の団体が蔵書の貸出を行っており、今後とも、連携を図りながら継続していきます。しかし、親子文庫の数やボランティアで関わる人数は減少傾向にあります。

⑤ 読書活動

- ・ 公民館等で活動している文庫等は、館内の活動だけでなく、幼稚園等にも出向いています。子どもの数が減少する中で、今後どのように読書活動を推進していくかが課題です。

8 図書館における現状と取組・成果と課題

(1) 現状と取組

図書館は、平成 16 年 7 月に第 1 次計画策定後、計画推進の中心組織として位置づけられている「岸和田市子ども読書活動推進会議」を開催するなどし、推進のための意見・情報の交換を行ってきました。

この間、図書館では平成 16 年度と比較し、平成 23 年度までに、次のようにサービスを充実させてきました。

- ・ 自動車文庫「なかよし号」の小学校への巡回：2 校増加し 11 校
- ・ 学童保育への配本：7 か所増加し 26 か所
- ・ 児童書貸出冊数：年間約 15,000 冊増加：平成 16 年度 424,568 冊
平成 23 年度 439,659 冊
- ・ インターネットでの予約申込や貸出延長手続きサービスを開始
- ・ 全館で月末図書整理日を廃止し、開館日数を増加
- ・ 本館は、5 月 5 日（こどもの日）、11 月 3 日（文化の日）を開館

また、旭分室は平成 22 年 11 月に、J R 阪和線東岸和田駅前へ移転し、分館となり蔵書を増やしてきました。平成 25 年には新たに建設される 2 か所の市民センター内にそれぞれ図書館分館が開館予定。

(2) 成果と課題

① 読書環境の整備・充実

ア 図書館

- ・ 開館時間の延長

本館では、平成 23 年度から開館時間を毎週水曜日のみ、午後 6 時から午後 7 時に延長しました。ただ、市民への周知などに課題があります。

- ・ インターネットを活用したサービスの充実

平成 13 年度からホームページを開設し、図書館の蔵書検索が可能となりました。さらに、平成 20 年度からは、中学生以上の個人利用者に対して、インターネットを利用した予約サービスや貸出延長サービスを開始しました。その結果、予約件数が増加しました。今後、現在は実施されていない団体利用者へのインターネットサービスを検討する必要があります。

- ・ 読書スペースの整備

本館では、館内の児童書スペースに新たに本を展示できる面展台を設置し、テーマ展示をするなどの工夫をしました。

- ・ 児童書の充実

新刊図書の購入とともに、破損・汚損した図書の買い替えなど、子どもたちが手に取りたくなるような図書の充実に努めています。また、子どもたちがさらに見やすく、手に取りやすいよう、本の並べ方にもいっそうの工夫が必要です。

イ 児童サービス

- ・ ブックスタート

岸和田市のブックスタートは、単に絵本をプレゼントするだけではなく、引換券との交換場所である図書館、公立保育所、子育て支援センターさくらだいへ足を運んでもらうことにより、それぞれの施設利用のきっかけともなっています。保護者に事業の意義を広め、理解を深めてもらうために、職員のスキルアップと広報活動が必要です。

- ・ だっこでおはなし会

だっこでおはなし会は、ボランティアと協働で生後間もない赤ちゃんとその保護者を対象に実施しています。全6回のコースになっていて、赤ちゃんの成長を実感できる内容となっています。だっこでおはなし会終了後も、わらべ歌や絵本の勉強ができる場を設けました。その成果として、引き続き勉強会に参加する親子の姿が見られるようになりました。多くの希望者が参加できるよう、プログラムの見直しや、さらなる広報活動が課題です。

- ・ お話会

本館、分館で職員やボランティアの協力で開催しているお話会は、参加者数が多いときと少ないときの開きがあり、よりいっそうの広報活動や、実施する職員のスキルアップが課題です。

- ・ お話会スペシャルの開催

夏休みなど、児童の長期休暇期間に工作会なども取り入れたお話会を実施しています。お話会への参加者拡充とそのための広報活動が課題です。

- ・ 職場体験学習の受入

中学生の職場体験学習後の感想から、体験を通して図書館理解につながっていることが分かります。今後とも中学校と連携しつつ、この事業の継続と充実に努め、中学生の読書活動を推進することが課題です。

- ・ ヤングアダルトコーナーの充実

多くの中・高校生に利用してもらえよう、コーナーの位置や図書の内容が容易に分かるような表示の工夫と内容の充実をするなどし、利用を増やすことが課題です。

ウ 障がい児・者向けサービス

- ・ 視覚障がいのある児童が、絵本を楽しめるように作られたさわる絵本を開架スペースに展示しています。平成 23 年 6 月から、図書館は、サピエ（目で文字を読むことが困難な人に、さまざまな情報を点字、音声データで提供するインターネット上のネットワーク）に加入し、デジ図書を含む録音図書の貸出サービスを開始しました。その結果、障がいのある市民への読書の機会が広がっています。しかし、児童・生徒の利用はなく、今後の P R が課題です。
- ・ 障がいのある児童へのサービスは、点字付き絵本、さわる絵本等の資料を所蔵していますが、その資料を必要としている利用者へ橋渡しができていません。障がいのある児童へのサービスは、来館を待つのみでなく、図書館が積極的に情報を収集し、利用者のニーズに応じていくことが必要です。

エ 職員のスキルアップ

- ・ 児童サービスを担当する職員は、大阪府が主催する研修会などに積極的に参加しています。その情報を共有し、活用することが課題です。

② 学校・関係施設・文庫・ボランティアとの連携・協力

ア 学校との連携

- ・ 図書館は、土曜日、日曜日を開館し、本館では毎週水曜日の開館時間を午後 7 時までとしています。また、インターネットで図書館の蔵書検索ができたり、団体貸出ができたり、さまざまなサービスを提供しています。しかし、これらのことが、子どもの読書活動を推進していく上で、重要な役割を担っている保育士や教職員などへ周知が十分でなく、いかに図書館を活用してもらうかが今後の課題です。
- ・ 団体貸出の利用を促進する上で、資料の運搬手段が課題となっています。資料運搬方法の整備について、関係各課との検討が必要です。
- ・ 学校図書館協議会が図書館本館で開催されるようになってから、団体貸出などについての説明をする機会を持つことができました。今後とも、教職員などへ情報の発信を続ける必要があります。

イ 関係施設との連携

- ・ 保健センター（健康推進課）
ブックスタートのあり方について、保健センターで実施可能な取組方法を共に話し合っていくことが課題です。
- ・ 子育て支援センターさくらだい（保育課）
子育て支援センターさくらだいの開設により、子育て支援の一環として絵本を紹介する活動などを図書館が行う機会が持てました。その結果、図書館利用の促進につながってきています。このような取組を増やしていくことが必要です。

ウ 文庫やボランティアとの連携

- ・ 文庫やボランティアが活発に活動できるよう、団体貸出や活動場所の提供を行っています。今後も研修や講演会を協働で開催し、積極的な交流で充実させていくことが課題です。

第3章 第2次岸和田市子ども読書活動推進計画の基本方針

1 第1次計画における取組・成果と課題（抄出）

ここでは、第2章の中から第2次計画の策定の際に重視すべきものを、アンケート結果（50 ページ以降）も押さえながら、各分野ごとに抄出しました。

(1) 家庭

アンケート結果では、「ブックスタート」の効果もあって、絵本の所有数、絵本好きの幼児が増えています。絵本が、保護者の深い愛情を受け、人間性を豊かにする大切な時間と場であるという認識の広がりも、十分とは言えません。

(2) 保育所（園）・幼稚園

各保育所（園）・幼稚園では「絵本・読書コーナー」が設けられ、絵本や物語等への興味・関心が高められていますが、財政的な問題もあって、蔵書数等が不足しがちで、本に親しむ環境づくりという点で課題が残ります。

指導面では「読み聞かせ」を重視し、効果を上げていますが、今後、専門的な知識や指導技術などを得るための研修会や講演会への参加が必要です。

(3) 学校

読書に親しむ環境づくりとして、さまざまな活動が行われ、また、学校図書館コーディネーターの配置（小学校のみ1校週2日）が行われて、図書の選定・整備・貸出・利用指導等で、以前より充実した取組がなされています。しかしながら、コーディネーターの勤務形態や教職員との連携など、課題もあります。この制度の継続と拡大（小学校は勤務日増、中学校へは新たに導入）が望まれると同時に、専任司書教諭の配置も必要です。

蔵書率も大幅に上がりましたが、子どもたちの「生きる力」、「自ら調べ考える力」の育成や指導者の教育資料の整備という点では、よりいっそうの充実が必要で、図書購入費の増額が望まれます。

(4) 文庫や市民団体

図書館と連携しつつ、「岸和田市立図書館ボランティアグループだっこ」、「おはなしのポケット」、「もこもこ」、「タッチ」、「キツツキ」、「灯」、「ひばり」、「岸和田みんなの図書館を考える会」、「岸和田市子ども文庫連絡会」のグループが、それぞれ特色ある活動をしています。人員の確保、研修のあり方、ニーズへの対応などに課題があります。

「岸和田市子ども文庫連絡会」は、市民活動の中心的存在として、市立全小学校に「お話配達（本の紹介、読み聞かせ等）」を実施したり、「文庫活動（貸出、お話会、工作等）」や定例講座、講演会等を催したりすることによって、読書の楽しさ、意義等を伝えています。メンバーの広がりや他機関との連携の強化が課題です。

(5) 書店

本の売り上げが低下する中、子ども向けの本のコーナーの充実が、より求められています。

(6) 公民館

図書館と連携を取りながら、蔵書の充実整備、学習活動や各種事業への支援や参加で、読書活動の振興を図っています。

平成 25 年度には、新しく 2 つの市民センターが竣工し、併設される公民館や図書館分館で新しい事業等が展開されます。これを機会に、地域の子どもたちへの読書活動の新しい働きかけが課題とされます。

(7) 図書館

読書活動の整備・充実を推進していく上で、保育所（園）、幼稚園、小学校、中学校、高等学校及びボランティアグループなどが、インターネットで申し込みができる団体貸出サービスの開始と資料の運搬手段確保が課題です。

読書が困難な子どもへは、図書館が積極的に情報を収集し、そのニーズに応えていくことが必要です。

現在、取り組んでいる「ブックスタート」、「お話会」、「団体貸出」、「中学校・高等学校との連携」、「ボランティアへの支援」などをより進展させていくことが課題です。

2 第2次計画の基本方針

緑豊かで歴史のある岸和田市には、良き伝統と文化が息づき、人々に郷土を愛し、進取の精神に富む気風を育んできました。しかし、近年の情報化時代を反映した「物質社会」は、ともすれば精神文化に悪影響を与え、物事をじっくり考え醸成していくといった根本的な価値観や行動様式にも変化をもたらしています。例えば、読書においても時間をかけ、じっくりと物語の世界に浸ったり、知の世界を探検する楽しさを味わったりすることが少なくなっているように思います。

このような観点に立ち、前章の成果と課題を踏まえながら、次のような基本方針を定めました。

(1) 読書に親しみ、読書を楽しむ環境づくり

本は、感動と知的興奮で人の心を育てる力を持っていると言われます。そのことを意識しながら、さまざまな種類の本に親しむとともに、楽しさの中で読書習慣が形成されるように、人の配置や資料の充実など図書館をはじめとした読書環境の充実に努めます。

(2) 岸和田の特色を活かした読書への^{いざな}誘い

岸和田の伝説・昔話を取り上げた「岸和田読書ビンゴ」等を通じて、子どもたちが岸和田の良さを知るとともに、郷土を愛し、心のふるさと感じるような読書体験ができるよう取り組んでいきます。

(3) 読書活動の推進に向けた連携

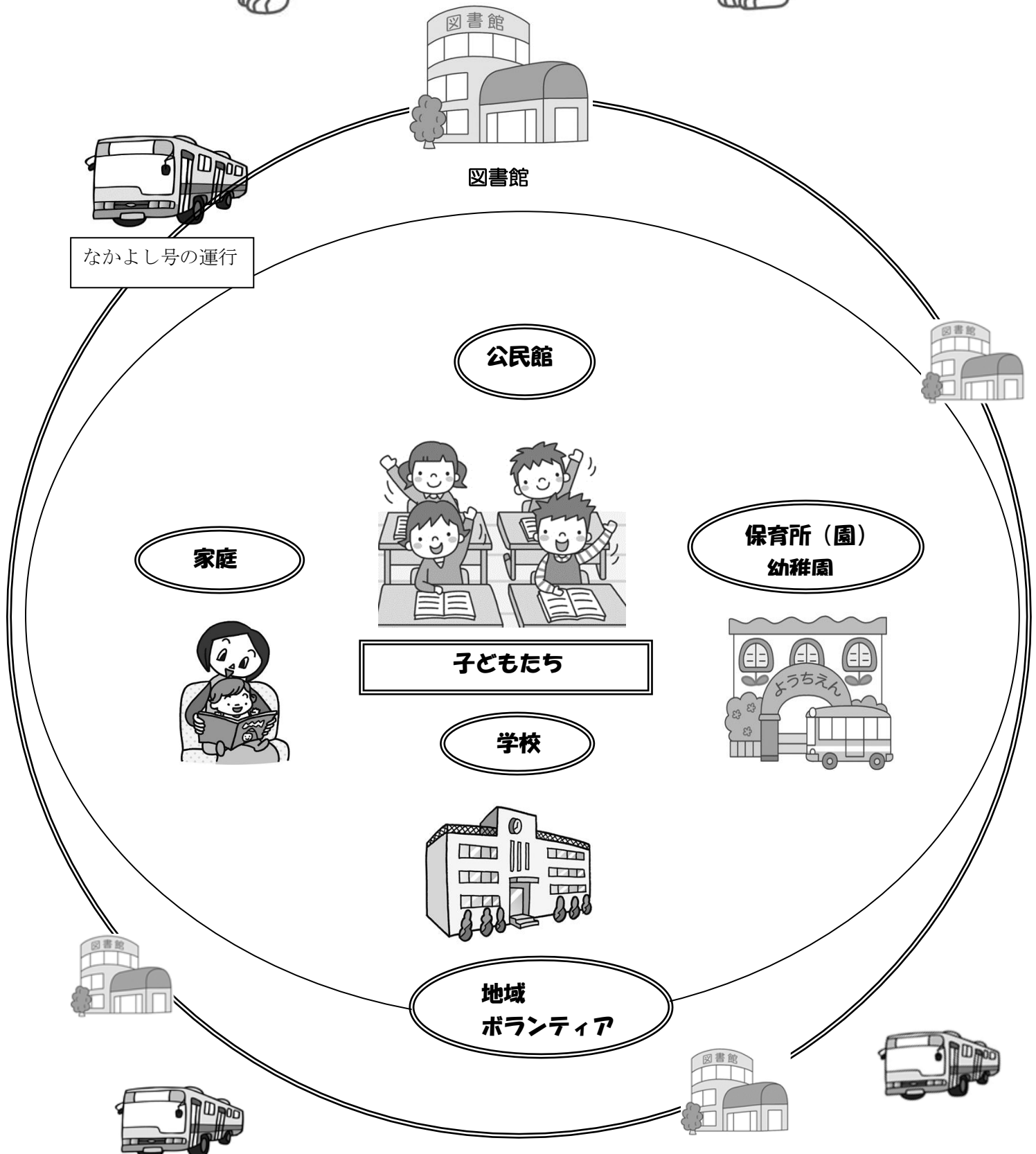
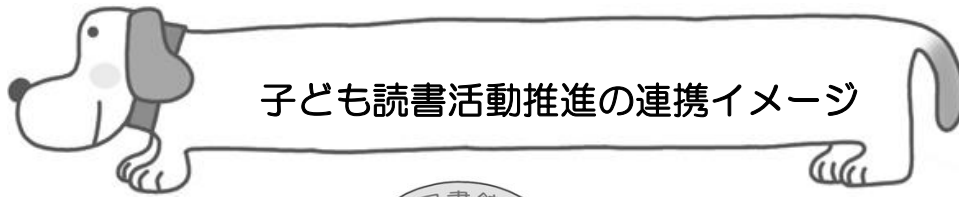
家庭、保育所（園）、幼稚園、学校、地域や図書館などが互いに連携し、子どもの読書環境を整備することによって、よりいっそう大きな力、大きな成果が得られるよう、取り組んでいきます。

(4) 啓発・広報

市民一人ひとりが、子どもの読書活動の大切さについて、関心を高め理解が深められるよう、また、この計画の取組を広く知ってもらえるよう、啓発・広報活動を充実させます。

(5) 推進体制の整備

この計画を推進し、それぞれの取組を効果的に実施するための体制を整備します。



第4章 子どもの読書活動推進のための具体的方策

1 家庭

(1) ブックスタートの活用

- ・ブックスタートの絵本をきっかけに、親子がゆったりとふれあう時間を持つことで、赤ちゃんの心や言葉の成長につながる要素の一つとなることを伝えていきます。

(2) お話会の開催

- ・子どもの発達段階に応じたお話会を開催していきます。それを幼い頃から親子が読書に親しめる環境づくりにつなげていきます。

2 保育所（園）

(1) 読書環境の整備と充実

- ・読書の大切さを幼児期から伝えていくために、絵本の質と量の充実を図るとともに、絵本コーナーの環境整備をめざします。その一つとして、子ども一人当たりの図書数から園の目標数を出し、予算の中で、絵本分の予算を年度初めに計画します。そして、年次的に目標数に向けて増やしていきます。
- ・多くの子どもたちが、いっしょにお話を楽しめる大型絵本が普及してきました。園の財産として1冊ずつ増やしていきます。
- ・学校、文庫、ボランティア、図書館との連携を密にして、子どもたちのニーズに応じた読書環境の整備・充実に努めます。例えば、岸和田の伝説・昔話を取り上げた資料を探し、読み聞かせる機会をつくったり、絵本や視聴覚教材を借りたりして、幼児を対象にボランティアによる読み聞かせのお話会を開催します。また、自動車文庫も利用していきます。

(2) 保育士の読書に対する意識や知識の向上

- ・子どもの発達における絵本のさまざまな知識や情報（読み聞かせの指導方法、絵本作家による講演、新刊の絵本紹介、楽しい絵本コーナーのコーディネート、絵本の修理の仕方など）を得るための研修会や講演会を開催したり、参加したりします。

(3) 家庭や地域への読書の重要性についての啓発

- ・乳幼児期からの読書の大切さや子どもと共に楽しむ絵本の選び方などを、お便りや行事、懇談会などで伝えます。
- ・子どもの好きな絵本や読み聞かせの楽しさなどを日常的な会話や連絡ノートなどで個別に伝えます。また、絵本の貸出を充実します。

- ・ 地域の親子に読み聞かせなどのお話会や絵本の紹介を、園庭開放、赤ちゃんルームや地域の子育てサロンなどで継続的にを行います。
- ・ 図書館や地域の文庫、ボランティアとの連携によって赤ちゃん向け、幼児向けなどの絵本紹介リーフレットをつくり、園児や地域の親子に配布します。
- ・ 家庭で人気の絵本をリーフレットづくりの参考にします。

3 幼稚園

(1) 読書環境の整備と充実

- ・ 紙芝居や大型絵本なども用意して園児を楽しい物語の世界に誘い、子どもが絵本を好きになるように努めます。岸和田の伝説や昔話を読み聞かせ、ふるさとの良さを伝えるようにします。
- ・ 子どもが読みたいとき、すぐに絵本を手にするができるよう、また、多様なジャンルに興味や関心が持てるように、工夫して絵本コーナーを設け、友だちといっしょに読める時間や場所を確保します。
- ・ 教職員だけではなく、市民団体、学校図書館コーディネーター、小学生らによる読み聞かせの時間を、さらに充実できるように連携・協力要請をしています。
- ・ 小学校、文庫、市民団体、図書館などに協力を要請し、幼稚園の読書環境や図書の充実をしていきます。

(2) 教職員の読書に対する意識や知識の向上

- ・ 園児の理解力に応じた絵本の選び方や、季節、行事等を考慮した絵本の与え方、読み聞かせ方などの園内研修を充実させます。
- ・ 専門的な研修会、講習会の機会をとらえ、積極的に参加し教職員の意識や知識の向上を図ります。

(3) 家庭や地域への読書の重要性についての啓発

- ・ 読書が親子の絆を深めるものであること、子どもの心の成長にとって絵本の読み聞かせが重要であることなどを、園だよりや保護者会などで啓発します。
- ・ 幼稚園の絵本だけでなく、図書館、自動車文庫、小学校の図書館などの絵本を借りて、家庭への絵本の貸出を充実させます。
- ・ 個人で絵本を所有する環境を支援するため、誕生日に絵本のプレゼントをしたり、月刊誌を紹介したりするなどし、親子の絵本に接する機会が増えるようにします。また、絵本を大切にする気持ちや絵本の楽しさを伝えていきます。
- ・ 園庭開放時に絵本の読み聞かせを継続的にを行い、保護者や地域の人に、子どもといっしょに絵本を楽しむ機会を多く持ってもらい、読み聞かせの大切さを伝えていきます。
- ・ 絵本の情報を得ることができるよう、図書館、自動車文庫、地域の文庫等の情報を載せたリーフレット等を家庭に提供していきます。

4 学校

(1) 学校図書館の蔵書の充実・整備

- ・ 学校図書館図書標準が定めた蔵書冊数にさらに近づけるように、計画的に蔵書を増やしていきます。また、学習意欲を高める本や人生をより良く生きるための力となる本など、児童・生徒の興味・関心に応じた蔵書を充実させます。また、「自ら調べて考える」ための百科事典や図鑑の配備に努めます。さらに、教職員にとっても、多様な学習活動を図るための教育資料となる蔵書の充実を図ります。

(2) コンピュータや施設の整備

- ・ コンピュータによる蔵書目録のデータベース化をさらに広げます。また、くつろげる雰囲気や学習しやすい環境整備に努めます。とくに、配架について工夫を行うことで、すべての子どもたちにとって、本を選びやすい学校図書館整備に取り組めます。

(3) 司書教諭、学校図書館コーディネーターの配置及び連絡会議や研修会

- ・ 司書教諭が、学校図書館の環境整備と利用促進を図り、資料提供や読書活動、調べ学習への助言などの役割を十分果たせるように、小学校においては、学校図書館コーディネーターの配置の継続・拡充を、中学校においては、学校図書館コーディネーターの配置をめざします。その上で、司書教諭の専任化など、制度面の改善について国や府に引き続き要望していくとともに、学校においては、司書教諭等と学校図書館コーディネーターの連携を深め、子どもたちの読書活動や学習活動をさらに推進していきます。そして、連絡会議や研修会を開催することにより、個々の力量を高めるとともに、横のつながりを密にしていきます。

(4) 教職員の意識の向上

- ・ 校内において、教職員に対して読書活動推進のための研修を行うことで、学校全体での取組になるようにします。また、家庭・地域との連携による読書活動を視野に入れた取組を学校全体で行っていきます。学校での読書活動を家庭・地域に広めるとともに、家庭での読書を啓発するために学校図書館だよりの発行など、各校の実態に応じた工夫を行います。

(5) 図書館や文庫、ボランティアとの連携

- ・ 図書館の蔵書の活用や司書による研修を行うことで、図書館との連携を深めていきます。文庫、ボランティアの支援・協力により、子どもたちの読書に親しむ機会をさらに増やします。

(6) その他の読書活動推進の取組

- ・ 学校図書館協議会と連携しながら、引き続き読書感想文集「本を読もう」を発行します。また、朝の読書、読書の時間などや読書週間の取組を継続し、読む習慣の定着を図ります。

- ・ 岸和田市内の小学校で共通の岸和田読書ビンゴを作成し、多様な本を読む楽しさを伝えます。ビンゴの中には岸和田の伝説や昔話を読む課題を含め、岸和田の良さにふれる機会を提供します。
- ・ 学校図書館のさらなる機能向上のために、国が実施する地方財政措置を十分に活用しながら、蔵書整備や本と子どもをつなぐ人材の配置等に努め、子どもの読書活動を推進します。

5 文庫やボランティア

文庫やボランティアは、子どもの読書活動を支えるために、重要な役割を担っています。文庫やボランティアの代表者は、これからも定期的に図書館と話し合いの場を持ち、それぞれが抱えている課題を解決するために必要な手段を講じていきます。さらに、各グループがより積極的に活動できるように調整します。

【岸和田市子ども文庫連絡会】

(1) 文庫活動

- ・ 図書館の協力を得て蔵書をより充実させます。
- ・ 幼い子どもを連れた親子中心の文庫では、わらべ歌や絵本の読み聞かせを行い、これまで以上に、子どもの本に興味や関心を持ってもらえるよう働きかけます。
- ・ 子どもたちにとって魅力ある文庫活動にするため、図書館や市の子育て事業との連携も考えていきます。

(2) お話配達

- ・ 図書館と協力し合いながら、お話配達メンバーの養成やスキルアップに努め、幼稚園、小学校の全学年、中学校にもお話配達を実施できるようにしていきます。
- ・ 学校と連携を深め、学校図書館の様子や子どもたちの日常を把握して、有意義なお話配達が実践できるようにします。
- ・ お話配達の活動を通して気づいた学校図書館の環境改善やありようについて、学校等と意見交換する機会を持ちます。お話配達のプログラムの中に岸和田の伝説・昔話を取り入れ、岸和田の良さを知らせるようにします。

(3) 講座の開催

- ・ 子どもたちの興味・関心に合致しつつ、自分自身や社会について、深い考えを促すような本に関する講座を図書館と共に開催します。
- ・ 定例講座「絵本とお話を楽しむ会」を岸和田市子ども文庫連絡会の入門講座と位置づけ、新会員を募り、子どもと絵本やお話を楽しむことの意義を伝えていきます。

(4) 図書館との連携

- ・ 図書館との連携を深め、お話会や子どもの読書活動推進につながる講演会やワークショップを協力して開催します。
- ・ 図書館と連携して、これからの図書館のあり方やボランティアの活動について学ぶ機会を持ち、意見交換・交流を行います。
- ・ 平成 25 年秋に新しく 2 つの図書館分館が竣工する予定です。お話会の開催等を通して地域の分館を支援します。

6 書店

(1) 子どもの本コーナーの充実

- ・ 子どもが興味・関心のあることや、学校などでの取組についての情報を収集し、子どもたちが、本棚で本を探す楽しさを実感できる環境づくりを進めていきます。

(2) 「読書ノート」の活動

- ・ 大阪府書店商業組合が取り組む「読書ノート」の活動に参加し、児童への無償配布を続けていきます。

7 公民館

(1) 蔵書の充実

- ・ 各公民館の蔵書を増やすよう努めるとともに、図書館と連携し、子どもたちが本に親しみやすい環境を整備します。

(2) 講座の開催

- ・ 市民センター併設の公民館や地区館で図書館と連携して、子どもの本に関する講座を開催し、読書推進について保護者に理解を広めます。

(3) 読書活動の支援

- ・ 子育てを支援する講座の中に「絵本の読み聞かせ教室」などを取り入れて、家庭での読書活動を支援します。

(4) 研修会の実施

- ・ 公民館保育者（保育つきの公民館講座などで保育をする人）に対し、絵本に関する研修会を実施します。

8 図書館

(1) 読書環境の整備・充実

① 図書館の環境

- ・ 子どもの発達段階に添って、感動や好奇心を呼び起こすような図書の収集に努めます。子どもや子どもに関わる人たちが、魅力ある図書と出会える図書館づくりをしていきます。
- ・ 岸和田の伝説・昔話や文化財、だんじり祭など、ふるさとの良さを知る図書の収集に努めるなどして、各学校の読書活動の支援を行います。
- ・ 子どもたちの興味・関心を呼び起こすような展示、配架に努めます。
- ・ 現在、図書館は、中央館的役割を持つ本館と、3館の分館があります。平成25年度中に新市民センター2館の完成によって併設される新分館と合わせて、市内の図書館は6館になります。新たな分館の一つは、児童サービスに重点をおいた館とするために、児童向け資料を多く収集し、低書架を配置するなどの工夫を、またもう一つの分館は、家族連れでの来館を促すため、児童書と一般書を近くに配置するなど、子どもと保護者の両方が楽しめる空間づくりをしていきます。今後、これら6つの図書館と自動車文庫のネットワークを強化し、市全域にサービスが行きわたるよう努めます。
- ・ 保育士や教職員などは、図書館の通常の開館時間では利用が難しい状況にあるようです。本館が毎週水曜日、午後7時まで開館していることや、インターネットで図書館の蔵書検索ができることなどを周知することで、利用を促進し、子どもの読書環境の整備につなげていきます。
- ・ 現在、インターネットサービスの提供は個人利用者に限られています。子どもに関わる保育士や教職員などが、より図書館を利用しやすいように、団体貸出のインターネット予約を検討していきます。

② 乳児（家庭）への取組

- ・ ブックスタートによる子育て支援について保護者に周知していきます。そして、赤ちゃんの発達に合わせた本の紹介や読書相談ができるよう、職員のスキルアップを行います。さらに、利用者が職員に声をかけやすい対応を心がけます。
- ・ 図書館は保護者が楽しく子育てができるよう、ボランティアの協力を得て、親子で絵本や手遊び、わらべ歌を楽しむ事業を引き続いて開催し、家族での継続的な図書館利用を促進します。
- ・ お話会のよりいっそうの広報活動や、実施する職員のスキルアップなどに努めていきます。
- ・ 家庭での絵本選びの助けになるように、絵本リストを作成します。

③ 幼児（保育所（園）・幼稚園）への取組

- ・ 幼児が絵本をはじめ、物語や図鑑といったさまざまなジャンルの図書にふれることができるよう、蔵書の充実に努めます。
- ・ 図書館から遠い場所にある保育所（園）・幼稚園の園児たちの読書活動を支援するために、子どもと本、子どもと図書館を結びつけるための事業を定期的に企画、実施し、子どもたちに物語の世界を楽しんでもらうための取り組みを行います。

④ 小学生（小学校）への取組

- ・ 団体貸出図書の受取が各学校で可能になるよう運搬手段について、関係各課と協議を重ねます。
- ・ 自動車文庫の巡回を希望する小学校と協議をしながら、運行拡充を図っていきます。
- ・ 小学校の英語教育の取組に関連した英語表記の図書の収集に努めます。また、岸和田市内に住む外国の子どもたちが母国の文化に接することができるよう、様々な言語の絵本や物語をそろえます。また、日本語を学ぶための本や、日本の絵本を翻訳した資料も提供し、日本の文化になじむための支援をおこないます。
- ・ 子どもが読書への興味・関心を高められるよう、ボランティアや専門講師の協力を得て、お話会などを開催します。
- ・ 学童保育への配本を引き続き実施し、指導員との連絡を密にすることで、子どもたちのニーズの把握に努めます。

⑤ 中学生・高校生（中学校・高等学校）への取組

- ・ 研修会に参加するなどし、中・高校生の読書活動を推進していく上で必要な情報交換などに努めます。
- ・ 図書館（本館・山直）で設けているヤングアダルトコーナーを充実させ、中・高校生が利用しやすいよう工夫し、利用促進に努めます。
- ・ 中・高校生に向けて、新刊図書リスト、おすすめ本リストを作成・配布し、図書への興味・関心を促していきます。

⑥ 障がい児・者への取組

- ・ 図書館への来館が困難な障がい児・者の読書機会が損なわれないよう、宅配・郵送サービスの案内と拡充に努めます。
- ・ 視覚障がい児・者には、さわる絵本、点字付き絵本、点字本、録音図書（デイジー図書等）、対面朗読の利用促進に努めます。
- ・ 図書館は、障がい児・者の読書活動推進に携わるボランティアと定期的に話し合いの場を持ち、活動内容の理解を深めるため、研修報告や利用者の声などの情報を共有してサービス拡充に努めます。
- ・ 聴覚障がい児・者には、お話や絵本の世界を楽しめるよう、手話付きのお話会を実施します。
- ・ 保護者には、その子どもの発達に合わせた図書の紹介をすることで読書活

動を支援します。

⑦ 職員のスキルアップ

- ・ 職員は、研修会や講演会に積極的に参加し、スキルアップに努めるとともに、職員間で情報を共有し、子どもの読書活動推進に活かします。

(2) 学校・ボランティア等との連携

- ・ 家庭、保育所（園）、幼稚園、学校、ボランティアグループ、書店、公民館などが、主体的に子どもの読書活動を推進できるように、図書館はその中心的な役割を担い、連携を強化していきます。
- ・ 分館は、地域のコミュニティーセンター的な役割を担う市民センターの中にあります。その利点を活かし、地域ぐるみで読書環境の整備に努めていきます。
- ・ 現在、小学校へ実施している団体貸出、自動車文庫、学童保育への配本を拡充するとともに、図書の配送手段の課題解決に向け、議論を重ねていきます。
- ・ 障がい児・者へのサービスを拡充するために、ボランティアセンターや関係団体との連携を深めていきます。
- ・ ボランティアグループと協働で講演会や研修会を開催し、子どもの読書についての考察や知識を得る機会を作り、子どもに関わる大人の理解と関心を深めていきます。
- ・ 学校の図書担当教職員、学校図書館コーディネーター、ボランティアとの交流を密にし、情報交換を行います。

第5章 第2次岸和田市子ども読書活動推進計画の推進方法

1 計画期間

第2次計画は、平成25年度から、平成30年度までのおおむね5年間を計画期間とします。この計画は、今後の情勢等の変化により、必要が生じた場合、随時見直しを行います。

2 推進体制の整備

第2次計画を効果的に推進させるため、行政関係各課や関係団体、ボランティアなどで構成する（仮）「岸和田市子ども読書活動推進会議」の開催を継続していきます。

この推進会議では、委員をはじめ、推進計画に関心のある市民や市職員なども参加できる講演会、意見交換会なども企画・開催していきます。

3 財政上の措置など

- (1) 市は、この計画に掲げられた各種取組を実現するため、必要な財政上の措置を講じるよう努めます。行政関係各課は、意見交換をするなどし情報を共有しながら、お互いに協力していきます。
- (2) 大阪府に対しては、学校図書館の図書の実と司書教諭の専任化について、必要な財政上の措置を講じるよう働きかけていきます。
- (3) 国に対しては、子ども読書活動に関する施策を推進するために、必要な財政上の措置を講じるよう働きかけていきます。

編集・発行：岸和田市教育委員会
生涯学習部 図書館
平成 25 年 11 月